

宮古市地域公共交通計画（概要版）

1. 計画の趣旨

公共交通は、通学、通院、買物など市民の日常生活に欠くことのできない移動手段であるとともに、地域間交流の促進を図る上でも重要な役割を担っています。

しかし、人口減少、少子高齢化、マイカー利用の増加などにより公共交通の利用者は低迷を続けています。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者は大幅に減少しています。

公共交通の検証と見直しを行うとともに、市、交通事業者、関係機関と市民が連携し、地域に必要とされる公共交通ネットワークの構築を進める必要があります。

こうした背景を踏まえ、人口減少などの社会経済情勢の変化に対応するとともに、将来を見据えた持続可能な公共交通体系を構築するため、そのマスタープランとなる「宮古市地域公共交通計画」を策定するものです。

2. 計画の区域・期間

- 計画の区域：宮古市全域
- 計画の期間：令和5年度から令和11年度の7年間

3. 宮古市の現況

- 公共交通の人口カバー状況（令和2年国勢調査結果を基に算出）
公共交通カバー人口：48,380人 公共交通カバー率：96.1%
※公共交通カバー圏：バス停から500m以内、鉄道駅から1km以内、
地域バス接続型デマンドタクシー運行地域内
- 公共交通に対する市の支援状況
令和4年度の支援状況：約3.2億円
市民1人当たりが約6,500円を負担していることに相当
- 公共交通の利用状況
人口減少、少子高齢化、マイカー利用の増加に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少

4. 宮古市の課題

- 課題1 広い市域の中での公共交通の効率化
- 課題2 公共交通空白地における移動手段の確保
- 課題3 利用者の低迷と公共交通の衰退
- 課題4 ハードとソフトの両面からの利用環境の改善

5. 宮古市地域公共交通計画

みんなで作る みんながつながる 公共交通

基本方針1

多様な交通機関が連携し「広い市域がつながる」公共交通の実現

基本方針2

参画と協働による「みんなで作る」公共交通の実現

基本方針3

みんなで利用し支え「次の世代につながる」公共交通の実現

目標1 市民生活を支える持続可能な交通体系の構築

- ・公共交通により外出することができる環境整備
- ・輸送資源を総動員し、持続可能な交通体系の構築
- ・脱炭素・低炭素の取り組みを進める

目標2 ニーズに合った交通ネットワークの形成

- ・利用状況や住民ニーズに適合した公共交通ネットワーク
- ・住民のスムーズな移動の確保
- ・利用状況や住民ニーズの積極的な把握

目標3 地域公共交通の利用拡大に向けた環境整備

- ・交通事業者、関係団体、市民、市が一体となった利用促進
- ・観光客が円滑に移動できる利用環境の整備

6. 計画目標に対する事業・プロジェクト概要及び評価指標

本計画の目標に対する施策を以下のように整理します。目標の達成状況を明確化するため、指標と目標値を設定します。

令和11年度に向けた目標値

- ①公共交通カバー率
96.1%⇒100%
- ②岩手県北自動車の収支率
39.3%⇒改善
- ③利用環境の満足度
38.5点⇒50.0点
- ④岩手県北自動車市民1人
当たりの年間利用回数
16.2回/人⇒19.1回/人
- ⑤三陸鉄道市民1人
当たりの年間利用回数
3.8回/人⇒4.2回/人
- ⑥山田線の平均通過人員
79人/日⇒191人/日
- ⑦タクシー市民1人
当たりの年間利用回数
5.8回/人⇒8.8回/人
- ⑧田老地域バス住民1人
当たりの年間利用回数
0.2回/人⇒1.0回/人
- ⑨新里地域バス住民1人
当たりの年間利用回数
2.0回/人⇒2.2回/人
- ⑩川井地域バス住民1人
当たりの年間利用回数
3.6回/人⇒4.0回/人
- ⑪三陸鉄道観光団体利用者数
29,628人⇒68,000人

目標1 市民生活を支える持続可能な交通体系の構築

施策1 幹線、支線交通の確保・維持（交通事業者）

- ①交通ネットワークの維持確保に向けた支援
- ②広域路線バスの維持確保・効率化
- ③鉄道の安全安定輸送の実現
- ◎④(拡充)地域公共交通におけるタクシーの維持・確保
⇒サービス向上、運行維持に向けた方策の検討
- ⑤災害時のネットワークの確保

施策2 公共交通の効率化

- ◎①(拡充)患者輸送バスの見直し
⇒誰もが利用できる交通モードへの転換
- ②通学時の路線バス・鉄道の活用

施策3 公共交通空白地への対応

- ①地域バス（コミュニティバス）の運行
- ②地域バス接続型デマンド交通の運行
- ③(新規)地域共助型の生活交通に対する支援
⇒運行体制の構築、運行経費への支援

施策4 脱炭素化・低炭素化に向けた取り組み

- ◎①(新規)グリーンスローモビリティによる地域内輸送
⇒生活需要・観光需要の実用性を検証
実証運行の結果を基に本格運行について検討
- ②エコ通勤の推進
- ③パークアンドライドの推進
- ④電気自動車、燃料電池車の導入

目標2 ニーズに合った交通ネットワークの形成

施策1 公共交通ネットワークの検証と見直し

- ◎①(拡充)地域の実情に合わせた路線バスの見直し
- ②地域バス・デマンドタクシーの検証・見直し

施策2 住民ニーズの把握

- ①公共交通に関する説明会や意見交換会の実施

目標3 地域公共交通の利用拡大に向けた環境整備

施策1 誰もが利用しやすい環境整備

- ◎①宮古駅のバリアフリー化の実施
- ◎②八木沢・宮古短大駅アクセス路の整備
⇒河南地区側からのアクセス路を整備
- ③バスロケーションシステムの運用
- ④オープンデータ化の推進
- ⑤地域連携ICカードの普及促進
- ⑥Ma a Sの推進

施策2 利用促進事業の実施

- ①高齢者エリア定期券の販売
- ◎②(拡充)JR山田線利用促進の実施
- ③観光など二次交通への配慮
- ④外国人来訪者への対応
- ⑤まちづくりに合わせた公共交通の取り組み
- ⑥タクシー受取代行サービスの実施

施策3 公共交通の認知度・理解度を高める

- ①乗車機会の創出
- ②公共交通に関する情報発信
- ③市広報誌での情報発信

※ 「◎」は重点事業